

## あとがき

本書の底本とさせていただいた神宮文庫蔵の『續松葉集』が、研究上注目すべき資料であることを最初にお教えくださったのは、恩師の吉田幸一先生であった。それ以来、数年かかったが、このたびようやくこういう形で刊行できるはこびとなった。

本文・初句および四句索引・地名索引は、村田君の礎稿に基き、神作が一张张エックした共同作業であるが、巻末に収めた「解題」は村田君の手になるものである。本書の解題としては、やや詳しくすぎるかも知れないが、中世・近世和歌専攻の村田君の現時点における覚え書という意味で全文収めさせていただくことにした。

本書の刊行にあたり、底本の翻刻および口絵写真掲載をご許可くださった神宮文庫に対し、深甚の謝意を表したい。なお、諸本調査の折、種々ご高配を忝うした内閣文庫（口絵写真掲載の御許可をも賜った）・尊経閣文庫および三重大学の黒川昌享氏・香川大学の佐藤恒雄氏・信州大学の滝沢貞夫氏、ならびに資料の提供と口絵写真掲載を御許可くださった宮内庁書陵部および橋本不美男・平林盛得兩先生に対し、心から厚くお礼申しあげたい。さらに、本書所収の「本文篇」の原稿整理および校正には、造酒廣秋・千艘幸子・青木恵子三君の助力を仰ぎ、口絵写真の撮影などでは山内英男君の援助を得た。記して深謝の意を表したい。また、刊行上お世話になった笠間書院主池田猛雄氏のご厚情も忘れ得ない。

未熟な本書の内容について諸先学のご批正を仰ぐことができれば幸甚である。

昭和五十二年六月三十日

神作光一